

自公政権を過半数割れに

今年も宜しく願っています

今年、3月に千葉県知事選挙、7月には参議院選挙が予定されています。去年の衆議院選挙で自公政権を過半数

割れに迫りました。引続き参議院選挙でも更に追い込みましょう。
物価高騰の波は収まらず、国民の暮らしは最悪の状況です。税金を軍事費に9兆円も使うのではなく、国民生活に使う政治が求められているのではないのでしょうか。一緒に力を合せましょう。

参議院千葉選挙区

白石ちよ予定候補(要旨)

私はシングルマザーで非正規雇用のワフルしながら子育てをしてきました。職場では女性差別を目の当たりにし、

もたちが夢をあきらめなくていいように、お金の心配なく学べる社会をつくりたい。

どんなに働いても生活は良くなり、

7月の参議院選挙で日本共産党の5人の比例候補全員当選とともに、定数3の千葉選挙区から議席獲得のために全力を尽くす決意です。



ならず、それでも家族のため頑張ってきました。子どもが有効。(自己責任で防止せよ...と)的には、留守番電話設定にし、電話に出ないようにすること

こそ、政治が変わります。暮らし命、平和一番の政治に!!



新年の陣馬山 (知り合いから)

補聴器助成始まる

12月議会(概要)

【問】全国の自治体では143で助成制度が広がっている。R6年2回定例会で補聴器購入費助成を求める請願が全会一致で採択された。助成を設けるべきではないか?

【答】補聴器購入費の助成については、現在制度構築に向けて検討中。補聴器利用者の生活の質の向上につながることから、助成額を含め令和7年度へ向け取り組んでいます。

防犯対策について

【問】連続発生している凶悪強盗犯罪や特殊詐欺などに、不安の声が寄せられており、近隣市が行っている防止機器の補助を

【問】連続発生している凶悪強盗犯罪や特殊詐欺などに、不安の声が寄せられており、近隣市が行っている防止機器の補助を

【問】連続発生している凶悪強盗犯罪や特殊詐欺などに、不安の声が寄せられており、近隣市が行っている防止機器の補助を

交通安全対策を

【問】国道6号線と市道260号線の交差点の事故が多発。この交差点の事故が千葉県でワースト1位になっており安全対策を。

【答】事故件数はR4年は9件、R5年28件、R6年は16件。

関係機関で現地診断を実施。千葉県警から、交通事故防止対策に前向きに取り組むとの回答。

(改善は裏面参照)

2025.2 第244号

ニュース

わかば

日本共産党流山東部後援会

<部内資料>

連絡先 高橋 TEL 090-6565-1749

給食費の値上げ!?

12月議会で突然
 「新年度4月1日
 から、学校給食費
 値上げをする」と
 報告がありました。
 小学校は、年9
 千350円、中学
 校で、年1万15
 50円と約20%の
 値上げになります。
 保護者負担は、1
 億9千万円になり
 ます。

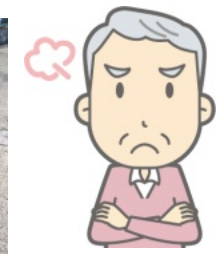
学校給食費無償化
 の全国の流れに逆
 行しています。
 市は、白みりん
 ミニシアム建設
 5億円、通称いざ



他にも次々と...

これまで市は国
 の補助金を活用し
 ながら10年間、据
 え置いてきました。
 今回の値上げは、
 料が、年1万2千
 円も値上げさ
 れます。

今年度から国保
 また下水道料金
 も7千200円、
 上水道料金も値上
 げが予定されてい
 ます。駅前駐輪場
 料金最大2千円も
 値上げラッシュで
 す。



「値上げは困る」
 の声を一緒に上
 げていきましょう。

“あきら”のホッと

ました。
 1週間で250万人がインフルエンザやコロナet cに感染していると言われてますから、1ヵ月で1千万人に迫る勢いです。
 皆様も風邪にはご注意下さいませ。



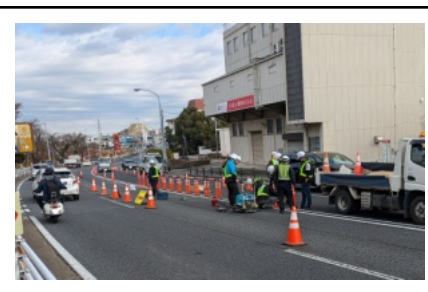
ポカポカ～夢の中



寒い冬で
 すが、我が
 家は湯たんぼが6個
 もあり、いつも温
 かい布団の中で、
 夢心地で快適です。
 年末年始に頑固な風
 邪に罹り、最悪な新年となり

危険な交差点改善

国道6号線の危険な
 交差点の改善が、1月
 8日に改善されました。
 右折禁止の標識と、
 中央線にポールが設置
 されました。



道路の修繕
 松ヶ丘5-751

身近な要望実現

要望・改善点をお寄せください。



大木の伐採
 を市へ要望
 前ヶ崎746



第3コミュ
 木の伐採



2度目の草刈り
 前ヶ崎381



前ヶ崎381
 ポールの修繕



国道6号
 名都借交差点



前ヶ崎城址
 の修繕



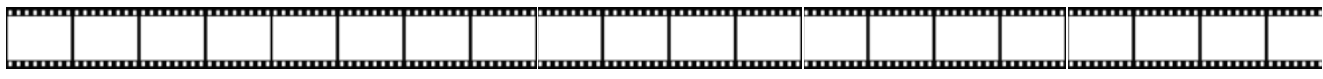
木谷工業前
 電柱が撤去



木谷工業 ← 草刈り ← 東部中学校前



八木幼稚園
 草の伐採



映画紹介

「犬と戦争 ウクラ イナで私が見たこと」

2025年 日本 ドキュメンタリー109分
 2月21日 新宿ピカデリーで公開

『犬に名前をつける日』などで知られる山田あかね監督が、ウクライナで動物たちを救おうとする人々を、およそ3年にわたる取材を通して追ったドキュメンタリーです。
 2022年にロシアによるウクライナ侵攻が始まって以来さまざまな分野の人々が動物たちを助け出そうとしました。あるウクライナのIT企業の代表は飼い主と犬をつなぐ技術を開発して無償で提供し、またポーランドの動物愛護団体であるケンタウロス財団は、侵攻直後にウクライナとの国境近くへ臨時シェルターを作って犬や猫たちを保護します。山田監督はこれまでに、小林聡美主演の『犬に名前をつける日』(2015)監督や『犬部!』(2021)脚本)など数々の作品で犬や猫の命をテーマに、福島や能登などの被災地にも取材を重ねてきました。そんな彼女だからこそ、戦場にいる犬たちの現実を伝えなければ」という覚悟で、戦禍のウクライナでカメラを回したのです。そして、一つの動画をきっかけに衝撃的な事件を知ることになります。「戦場にいる犬たちに、何が起きたのか？」ナレーションは俳優の東出昌大。自身も保護犬と暮らし、そして猟師として日々命の現場に立つ東出の言葉は、私たちにその現実を突きつけます。山田監督は、「犬は人間の最も近くに動物。彼らを通して世界を見ると、人間の姿が浮き彫りになる。犬の向こう側には必ず人間がいます」と語る。本作では、戦場で生きる犬たちの様子をはじめ、その小さな命を救おうと世界中から駆け付けた人々の奮闘する姿が映し出されます。犬たちを取材する中で見えてきたのは、戦争に翻弄される人々の姿、そして様々な立場から語られる平和への願いでした。(映画プロデューサー北村真平)